
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 386 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.01.14 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1016 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> この国の在り方=諸課題の再考と確認を 小泉浩郎

<イベント案内>

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME) 主催シンポジウム

共生主義と平和—レンヌ共生主義大会の成果を踏まえて (01/22)

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 「時代」は良くなっている

<巻頭言> この国の在り方=諸課題の再考と確認を

明けましておめでとうございます。読者のみなさんのご健勝を心からお祈り
いたします。

年末年始、どのチャンネルもバカ騒ぎに近い芸能人のオンパレードの中、ド
キュメント「日本の底力 メイドインジャパン (TBS)」、「世界が驚いたニ
ッポンスゴ〜イデスネ視察団 (テレビ朝日)」が心に残った番組でした。日本
の美しさ、日本人の技術力、国民の優しさが外国人の眼で語られ評価され、ま
た、異なった見方で改めて日本の底力に気づかされました。そこには、額に汗
して働くサラリーマン、工員、農業者、漁業者の姿がありました。ドラマ「下
町のロケット (TBS 系)」も中小企業の技術力と働く人々の意地に多くの共感
を呼び、高い視聴率を維持しました。その底力は、戦後、食べ物もないどん底
の暮らしから立ち上がった市井の人々の知と技とその行動力の結晶でした。

しかし、安倍政権の「戦後レジームからの脱却」は、額に汗をして築いた誇
るべき底力を蔑ろにしているように思います。矢継ぎ早に出るスローガンと政

策提案は、この国とこの国の農業をどこへ向かわせようとしているのか、多くの国民は疑問と不安を抱きつつあります。その結果、国を舵取る政権与党と毎日の暮らしにある国民の間には大きな溝ができ国民に苛立ちを募らせたまま新しい年を迎えてしまいました。

広がる溝をどう埋めるか。その溝は「丁寧に説明する」「予算で対応する」という姑息な手段では埋めきれない「ものの考え方」という大きな溝で、この国の在り方、この国の農業の在り方を左右するものです。原因は、安倍政権のスローガン「戦後レジームからの脱却」が打ち出す国民への説明不明のままの拙速な政策にあります。さらに政権与党の「多数による決められる政治」という妄信による民意の軽視にあります。

いま、必要なことは、繰り返しでもよい。国民の間に大きな溝を作っている諸課題を原点から問い直し、軽視できない更なる民意の結集をすることだと思います。当面の諸課題、(1)安保法制：憲法第9条、(2)原発再開：復興構想会議提言＝悲惨の中の希望、文明の転機、(3)TPP 大筋合意：関税を含む国家主権を守る聖域6項目の自民党公約、国会決議、(4)農業の成長産業化：食料農業農村基本法第一章4つの理念（食料の安定供給、多面的機能の発揮、農業の持続的発展、農村の振興）の再考と確認から出発する必要があります。

山崎農業研究所は、「現場に学び現場と共に」をモットーに、以上の諸課題も含め現場の声を拾い上げ地に足をつけた研究会、情報発信、社会的提案に努力してまいります。読者諸氏の益々のご協力とご支援をお願いいたします。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<イベント案内>

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）主催シンポジウム

共生主義と平和—レンヌ共生主義大会の成果を踏まえて（01/22）

先進諸国が低成長、ポスト成長の時代に入り、経済成長時代の拡大、自然と人間支配の経済主義思考を改めるべく、「脱成長」が唱えられてすでに十数年。現在世界では、立ち行かなくなった成長、資本の強蓄積を継続しようと、帝国

的介入、マネー経済、資源の収奪的開発が横行し、紛争、戦争、テロの悪循環が拡大して人びとの平和が損なわれている。

日本の日米軍事同盟強化の安保法制、バブルと債務悪化、格差拡大を導く大企業主導型のアベノミクスはその表現である。こうした時代に、脱成長時代の経済社会のあり方を真剣に構想すべく、フランスでは共生主義（コンヴィヴィアリズム）が唱えられ、昨年10月、レンヌ市で「共生主義研究大会」が持たれた。共生主義の一つには、友愛と連帯（絆）による人間社会の建て直しと人間・自然間のより調和的な暮らし方の再建、他方ではそのための経済優先主義からの脱却と共生文化の形成を目指す。

本シンポジウムでは、レンヌ大会に出席した二人の研究者が、レンヌ大会で見たフランス、ヨーロッパの脱成長、社会的経済・連帯経済・共生主義の現状と今後の展望について報告し、参加者の皆さんと討論することにした。

日時：2016年1月22日（金）午後3時半(3時開場)～5時半

場所：明治学院大学白金校舎本館10F大会議場（事前申し込み、参加費不要）

司会と発題：西川 潤（早稲田大学名誉教授）「共生主義とは何か？」

報告

・勝俣 誠（明治学院大学名誉教授）「脱成長から共生主義へ―『農の営み』を手掛かりにして」

・中野佳裕（国際基督教大学社会科学研究所研究員）「共生主義の現状と展望」

討論

お問い合わせ：お問い合わせ

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653

■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>

■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.136』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

誰のための被災地復興かを改めて問う◎渡邊 博

[第 150 回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

II 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開◎重岡 徹

[第 151 回定例研究会] 「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

解題：農業生産現場から見た「食料・農業・農村基本計画」◎小泉浩郎

I 新「基本計画」と農政転換◎森島 賢

II EU の農政改革と農村◎市田知子

参加者の声—地域の土地と農を守る◎人見みみ子／山崎繁雄／佐々木哲美

[特別寄稿]

・惨事便乗型資本主義の行方は何か？

—格差拡大、戦争経済、独裁ガバナンスの道をひた走る日本◎西川 潤

・都会人よ、田舎へ大移動を！◎長谷川 浩

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(7)

続・百姓仕事の精神性—天地観を取り戻す道／宇根 豊

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みみ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を
埼玉県上尾市 榎本美津子さん（小井川敏子聞き書き）
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい
広島県世羅町 井上幸枝さん（後由美子聞き書き）
- No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん（小泉浩郎聞き書き）
- No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達（小林徳子聞き書き）
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）
- No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見みゆ子さん（阿久津加居聞き書き）

<編集後記> 「時代」は良くなっている

年明け早々、敬愛する哲学者・内山節さんとお話する機会があった。あまりにベタな問いだといささかの恥ずかしさを覚えながらこう尋ねてみた。

「内山さんは著作活動を開始されてから 40 年ほどたつわけですが、時代は良くなっていると思いますか？ それとも悪くなっていると思いますか？」

内山さんはこんなふうに語られた。

「良い方向に向かっていると思いますよ。というのは、昔であれば、知識人といわれるような人たちがあれこれ言ったり書いたりしたわけだけれども、それだけのことだった。でもいまは、自分の生き方を変えたり、仕事を変えたり、場合によっては住む場所を変えたりする人たちが出てきているわけですから」

若者たちを中心に農や食への関心は着実に高まっていて、そこから地方に移住したり、農業をはじめたり、食に関する起業をしたりと、そんな田園回帰のうごきはじわりじわりと広がっている。それは GDP 何パーセント増などという景

気の良い話には直結しないのかもしれないが、暮らしのいちばんの基礎となる“地域”という場にとってはとても重要な、実のあるうごきなのだ。

国内についてはたしかに希望の芽はある。しかしいわゆる国際情勢をめぐってはどうか。

「いまの世界の混乱は、アメリカの覇権力の低下によるところが大きい。そのことを直視しなくてはならないのだけれども、マスコミや経済学者などはいまだにアメリカの覇権を前提に語っている……」

アメリカが国外にうって出たとき、そこに生まれるのは混乱であることのほうがよほど多い。とりわけイラク戦争以降の中東情勢をみるとそのことを痛切に感じる。グローバリゼーションの拡大もそうだ。そして、IS問題も含めて、いわゆる先進国以外の国々やそこで暮らす人々の語られ方の極端な偏りもおおいに気になる。

社会であれ、自然であれ、歴史であれ、それは単なる事実・事象であるというよりは、それを見る人（々）によって、そしてその時代によって大きくかわってくる。そうであるからこそ、まずは自分の足下から見つめたい、そして何に囚われているのか・いないのかを常に意識していきたい、そんなことを内山さんの話を聞きながらわたしは考えていた。

※内山節さんの主要著作が「内山節著作集」としてまとめられた（農文協刊）。一読されることを強くおすすめする。

第1巻 労働過程論ノート

第2巻 山里の釣りから

第3巻 戦後日本の労働過程

第4巻 哲学の冒険

第5巻 自然と労働

第6巻 自然と人間の哲学

第7巻 続・哲学の冒険

第8巻 戦後思想の旅から

第9巻 時間についての十二章

第10巻 森にかよう道

第11巻 子どもたちの時間

第12巻 貨幣の思想史

第13巻 里の在処(ありか)

第14巻 戦争という仕事

第15巻 増補 共同体の基礎理論

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54014140/

2016年01月14日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 387 号の締め切りは 01 月 26 日、発行は 01 月 28 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 386 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.01.14（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****